

あぜのきらめき（輪島市）

○ 世界農業遺産「能登の里山里海」の象徴でもある白米千枚田（しろよねせんまいだ）に、約2万個のソーラーLED電球を設置。冬の観光誘客としてのイルミネーションを実施している。

○事業主体 輪島市交流政策部観光課

○取組概要

厳しい風雪にさらされ観光客の入込が落ち込む冬場の誘客策として、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」のシンボルでもある白米千枚田をイルミネーションで彩る「あぜのきらめき」を平成23年度より実施。（平成25年度実施期間：11月9日～3月16日）

灯りは、日中は太陽光エネルギーで蓄電し、暗くなると自動的に点灯する「ペットボトル」と呼ばれる環境に配慮されたLEDライトで、これらは「ほたるびと」という全国から訪れるボランティアの方々によって田んぼのあぜに設置される。

当初1万2千個だったLEDの数も、今では2万1千個の灯りが千枚田の美しいあぜの幾何学模様を彩っており、平成24年度には「太陽光発電LEDの最大ディスプレイ」というカテゴリで、ギネス世界記録に認定された。

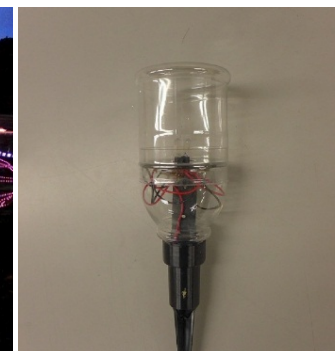
○取組の成果

「あぜのきらめき」を行程に組み込んだバスツアーなどの旅行商品が造成されているほか、多くの人の手によって守られている白米千枚田をはじめとした「能登の里山里海」における取組を考えるきっかけとなっている。

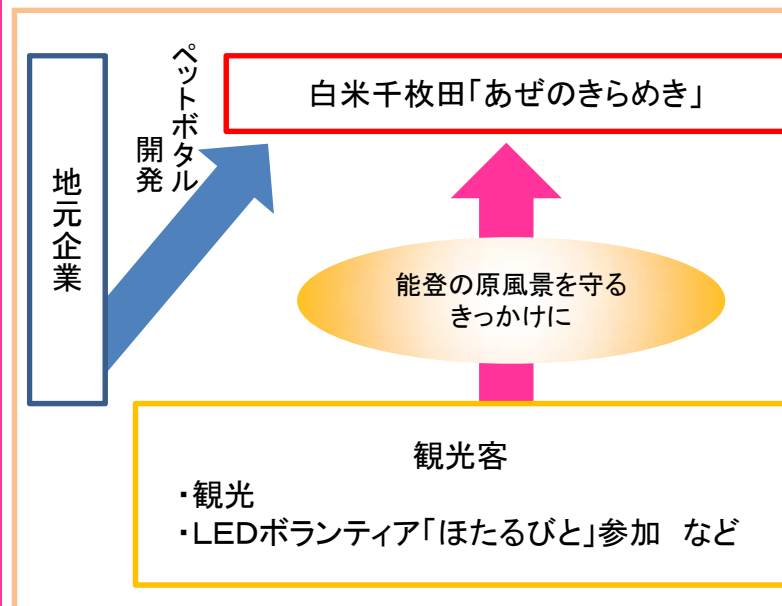
（平成25年度あぜのきらめき入り込み：129日間で約90,000人）



一面ピンク色に煌めく白米千枚田



ソーラーLED「ペットボトル」



能登井（のとどん）（能登井事業協同組合）

○ 奥能登2市2町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）の飲食店が、地元の旬の食材と能登産の器・箸を使用したオリジナルの丼を提供。

○事業主体 能登井事業協同組合

○取組概要

平成19年3月の能登半島地震により疲弊した奥能登の活性化のため、県と奥能登2市2町、民間事業者、地域づくり団体等で構成する「奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会」の事業の一環として、官民協働で開始。

「奥能登産のコシヒカリや地場でとれた魚介・野菜・肉等を使用する」「輪島塗・珠洲焼など能登産の器・箸を使用する」「使った箸をプレゼントする」といった定義に沿って各店舗がオリジナルの「能登井」を提供し、地域ブランドとして全国に発信している。

「能登井」の特徴は、豊かな里山里海環境を生かし、海鮮だけでなく、能登牛、能登野菜などをふんだんに使った多彩な丼があることである。また、期間限定で海女採りのサザエやアワビを使ったプレミアム能登井「海女採り丼」の販売なども行っている。

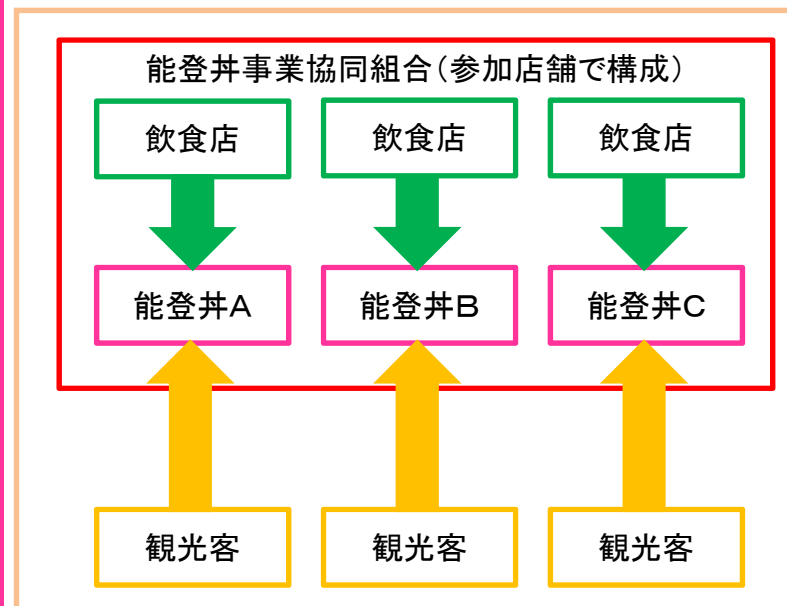
現在は、「能登井」のさらなる知名度の向上とブランド力の強化に向けた事業展開を図っていくため、平成22年12月に設立した「能登井事業協同組合」が主体となって事業を推進している。

○取組の成果

提供開始以来、平成26年1月までの累計で、約35万8千食、約6億2千万円を売り上げたほか、農林水産業のみならず、輪島塗や珠洲焼などの地場産業や観光地にも経済効果を及ぼしている。



お店の個性が光る能登丼



春蘭（しゅんらん）の里（能登町）

○ 集落を挙げて農家民宿に取り組み、国内外からの観光客に昔ながらの農村生活を体験してもらうなど、グリーン・ツーリズム型観光地域として農村の再生を図っている。

○事業主体 春蘭の里実行委員会

○取組概要

過疎・高齢化が進む地域に危機感を抱えた地区の有志が「若者が帰ってくる農村の再生」を目指し、村おこし活動の一環で、農家民宿に取り組む。

農家民宿では、1日1客、輪島塗の膳を用いる、地元産の食材を使用、化学調味料を使わない等のサービスコンセプトを統一し、こだわりをもったもてなしを心掛けている。

また、農家民宿の外観を白壁・黒瓦に統一することで能登独特の景観を維持しているほか、豊かな自然を生かし、田植え・稲刈りなどの農作業や山菜・キノコ採り、川魚掴み取りといった昔ながらの農村生活を体験してもらうことで、地域住民と都市住民の交流が図られている。

○取組の成果

平成9年に農家民宿の第1号が開業後、農家民宿の取組は徐々に広がり、現在は47軒にまで増加。また、廃校となった小学校を交流宿泊施設「こぶし」として整備。今では国内外の観光客のほか、東京や大阪等からの修学旅行生を受け入れるなど、年間約8千人の方が訪れている。

自然以外に何も無いということを手返りに取ることで、地域住民自身が隠れた地域資源を掘り起こし、宝としての価値に気付くきっかけとなった。



白壁・黒瓦の家並み

はざ干し体験



農家民宿第1号「春蘭の宿」



地元の食材をふんだんに使った食事

